

「課題に追われ勉強の毎日」「楽しんだ異文化体験」



テネシー工科大学 留学記

人文学部人文コミュニケーション学科 見目由奈

2015年5月から12月まで米国テネシー州クックビルのテネシー工科大学に留学しました。

最初の3か月は大学の中にある語学学校へ行き、Speaking, Listening, Writing, Readingの4つの面からレベルに合わせて英語を習いました。



先生達はとてもフレンドリーで気軽に質問する事ができ、不安だった気持ちはあっという間に飛んで行ってしまいました。そこでは様々な国からの留学生もたくさんいました。皆とすぐに仲良くなり、放課後は、遊びに行ったり、お互いの生活や言語



を教え合ったりして、英語の学修のみでなく、多くの文化に触れることができました。

そのおかげで今まで目を向けなかった国に関心を持つようになり、そうした国に対するステレオタイプなイメージが大きく変わりました。楽しい雰囲気の中で次々と新しいことを学べることはとても新鮮で、毎日がすごく楽しみでした。

驚いたことは、他の国からと日本からの留学生達が話す英語の量の差です。日本人は完璧な文法や発音を求めてしまい、「間違ったらどうしよう」、「恥ずかしい」など考えて積極的に話さない傾向があります。私自身がそうであり、自分の英語に自信がなくなり話すことが怖くなった時期がありました。

他の留学生を見ていると、英語力が不十分でもたくさん話すことで伝えようと努力していました。あとで先生にそのことを話してみたら、「彼らの英語は間違っているけど話すことで英語が身に付くし、先生達もそこで間違いを指摘する事ができるからどんどん話してみて」とアドバイスされました。それからは、私も積極的に英語で話すようになり、楽しくコミュニケーションできるようになりました。

語学学校終了後は、大学の正規の授業を受講しました。日本の大学とは違って毎日机に向かって勉強していました。課題に追われ、講義の中で、知らない単語が出てきたり、教授の話をうまく聞き取ることができなかったり、最終的に単位は取れたものの、それはかなりたいへんでした。

ここで私の支えになったのがホストファミリーの存在でした。プレゼンテーションの練習に付き合ってくれたり、発音を指摘してくれたりして私の勉強を側面からサポートしてくれました。それだけでなく、休日になると外出に付き合ってくれ、少しでも勉強の疲れを取り除こうと気遣ってくれました。



感謝祭には、ホストファミリーの親戚が住んでいるワシントンD.C.へ、10月はハロウィンパーティー、12月にはクリスマスパーティーとアメリカの伝統的な行事をホストファミリーと一緒に楽しみました。自分も家族の一員になれたと実感できて嬉しかったです。



約7か月の留学を通して、英語面はもちろんですが、生活面で得られるものも多かったです。普段感じることのできない異文化体験、ホストファミリーや出会った友達との絆をこれからも大切にしていきたいです。 (終)

